

南極3元中継進行表第3稿 (3/14/05)

特別番組：「私たちと環境問題のグローバリゼーション」

日本時間4月10日午後1時開始 (ロサンゼルス時間4月9日午後9時開始)

- 1 : 0 0 Dr. Thomas M. Fallo エルカミノ・カレッジ学長の開会スピーチ
- 1 : 0 1 同カレッジから各中継地への呼びかけ (木村正弘講師)
- 1 : 0 1 渡邊研太郎越冬隊長らに聞く (ロサンゼルスから昭和基地へ)
 - * 昭和基地周辺のライブ映像
 - * 昭和基地の今もっともホットなトピックス
 - * 第46次観測隊の目標
(http://www.nipr.ac.jp/japan/r_centers/index.html)
 - * 日米学生の代表質問(ライブ的な話題にまつわる一問一答)

渡邊研太郎越冬隊長について

これまで既に3回の南極越冬経験をもつ。専門分野は海氷圏生態学。

南極の海氷に覆われる海域では、温度条件、季節により大きく変化する海氷を基礎生産の場とするアイスアルジーや、海表層の植物プランクトンの光合成による有機物生産が物質循環を駆動している。これにより、数億トン以上の生物量と推定されるナンキョクオキアミを鍵種として魚、ペンギン、鯨類等が海氷圏生態系を形成している。この生態系が、環境変動にどう呼応するか、海氷域の減少が海洋の生物生産にどう影響するか、また生物圏から環境へのフィードバックの機序の解明を目指し、新観測技術を利用しつつ海氷域のユニークな生物群集とそのダイナミクスに関する新たな知見を積み重ねていく。海氷下の海は未知に溢れている。

(http://sendou.soken.ac.jp/~life_sc/watanabe.htmlより抜粋)

- 1 : 2 1 エルカミノ・カレッジから中山由美・朝日新聞記者へのバトンタッチ
- 1 : 2 2 南極紹介ビデオ (約8分)
- 1 : 3 0 中山記者の講演テーマと内容

<南極で一番高い基地、ドームふじでの観測と暮らし>

「ドームふじ」は、最低気温-79.7度を記録した極寒の地。昭和基地から1000km離れた内陸、標高3810mにあり、現在、南極にある基地の中では最も高い。

この地に基地ができたのは、岩盤まで3030mの厚さがある氷を掘るためだ。南極大陸には、大気の循環によって地球上から様々な物質が運ばれてきて降り注ぐ。こうした物質や大気を封じ込めた氷を掘り出して、分析することによって、過去の気候変動、地球環境などがわかってくる。氷は深く掘るほど古くなり、深さ3030mで100万年前の氷に到達する。

極端に寒いうえに空気が薄く、生活するには最も厳しい環境といわれる基地での生活の苦勞も多い。昭和基地からは雪上車で1カ月かかる。水は毎日雪をとかしてつくる。

中山由美記者について

報道機関から女性記者として初めて1年4ヶ月にわたり南極観測隊に同行。氷床コアから地球環境史を解明する「ドームふじ観測基地」でのルポは、多くの読者の関心を集めた。中山記者は現在、観測船「しらせ」で日本に向かって帰航中ですが、4月10日、朝日新聞社読者ホールで貴重な写真をもとに講演いただくことになっています。主に首都圏の高校生が参加予定。

- 1 : 5 0 * 日本側高校生の代表質問
- 2 : 0 0 中山記者からエルカミノ・カレッジへのバトンタッチ
 - * エルカミノ・カレッジ受講生の代表質問
 - * 大阪の IS 看護専門学校生の質問
 - * 世界のビューアからのコメント
- 2 : 0 5 ビデオの上演「地球温暖化とウエスト・ナイル熱について（約8分）」
1999年にニューヨークで初めて発見されたウエスト・ナイル熱は、破竹の勢いで米西海岸にまで広まってきました。その背後には「地球温暖化」との関係があるのではないかと推測されています。最大の被害地域となったカリフォルニア州南部を中心に、IT ビデオジャーナリスト達はその関連を追う。
- 2 : 1 3 * ゲストのコメント
 - * 渡邊越冬隊長のコメント
 - * 日米学生の代表質問
- 2 : 2 5 * 共催者からの挨拶
- 2 : 2 7 * テクニカルサポート社の紹介
- 2 : 2 8 * クロージング・コメント（土屋敬三 JETRO 所長）
- 2 : 2 9 * 南極のエンディング・テープ（ロス出し）
- 2 : 3 0 End